

ご来賓挨拶

鹿児島県保健福祉部介護福祉課 地域包括対策監 渡邊和代 氏



お疲れさまです。介護福祉課におります渡邊と申します。よろしくお願いたします。

第2回みんながつくる「地域包括ケア」学習交流会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、日ごろからそれぞれの立場で高齢者の医療・介護・福祉の充実のためにご尽力いただいておりますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

また、このたび昨年に引き続き第2回学習交流会が開催の運びとなりましたことは、実行委員長である鹿児島純心女子大学の八田教授をはじめとする実行委員会の皆様のご尽力のためであり、心から厚くお礼申し上げます。

さて、県におきましては、高齢化が進行し、認知症高齢者、ひとり暮らしや高齢夫婦世帯が増加する中、団塊の世代が75歳以上になる2025年をめどに、高齢者ができる限り住みなれた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができる地域づくりを進めるために、医療や介護などの専門的なサービスに加えまして、生活支援を含めた暮らしを支えるサービスが一体的に提供される地域包括ケアシステムのさらなる充実・強化を目指しているところです。

また、国におきましては、地域福祉推進の理念を規定した「地域共生社会」の実現に向けた取り組みの推進をこれからの我が国の目指すべき将来像として示しているところです。

このようなことから、自助・互助といった地域の力を高めていく必要がありますことから、住民の「お互いさま」の気持ちを地域の中で具

体的な仕組みにしていく地域づくりが求められております。特に地域づくりは、行政や介護専門の方々だけで行われるものではなく、その地域に暮らしている方々の知恵や工夫、特段意識しないで行っている支え合いなど地域の宝物を知っていただき、見つけ出し、気づくということが非常に重要であり、例えば、近所の方との何げない挨拶やお茶飲みは緩やかな見守りにつながりますし、趣味活動の集まりなどは貴重な情報交換の場につながります。

このような地域の中の宝物である資源から社会参加や役づくりにつなぐことを担っていただく生活支援コーディネーターと言われる方々が現在111名、各市町村に配置されており、今後さらに地域の実情に応じた活躍も期待されているところです。

本日の学習交流会は、鹿児島県版「住民主体」をテーマに、八田教授による基調講演や各団体による「わたしの住みたい街づくり」実践報告などを通じまして、地域福祉の中心的な担い手として貴重な実践を積み重ねている関係者の方々や地域づくりの主役である住民の皆様にご提供いただきますことはまことに意義深いものであると考えております。

最後に、本日の学習交流会が、皆様方にとりまして、地域づくりや生活支援のあり方などの理解を深め、関係者の結びつきを強めていただく契機となることを期待しております。

また、本大会の開催に当たりましてご尽力いただきました関係者の方々に心から敬意を表しますとともに、ご参加いただいております皆様方のご健勝とこれからのご活躍を心から祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。(拍手) ございました。